

すぎなみコミュニティカレッジ

講座：『もっと知りたい身近な図書館』

Vol. 2 「図書館サービス」

2003年2月27日（木） 10：00～12：00 於：杉並区立中央図書館

1. 児童サービスについて

図書館では、貸出・返却・レファレンスサービスの他、工作会・お話会・展示・リスト作成・図書館見学など、本や図書館に親しんでもらうためのサービスを行っているが、今後は積極的に図書館の外へ出て（学校訪問など）、こちらから働きかける必要性もあると考えている。

年齢別サービスについて

乳幼児...ブックスタートが始まった。

ヤングアダルト（12、13歳から18歳）...児童と成人の間に位置し、あまり図書館を利用しない層であることから、特にこの年代に向けてアピールを考えている。

具体的なサービス内容

フィクションに関していえば、児童は「古典」が中心。

選本・コレクションの形成

- ・カウンター：子ども専用カウンターの必要性を感じる。
- ・フロアワーク：手持ちぶさたの子どもに声をかけ、本を紹介したり読み聞かせをする。
- ・レファレンスサービス：子どもの質問は抽象的（「おもしろい本ない？」等）であることが多い。その子の好みに合わせ、本を紹介してあげたい。また、宿題等で本質とかけ離れた質問をしてくることもあるので、本当に知りたいことは何か、把握に努める。

お楽しみイベントの開催

- ・映画会、お話会、工作会、展示、ブックリスト、ブックトークなどを実施。
- ・お話会は、週2回30分、ボランティアの協力を得て実施。本の読み聞かせを通して、本の楽しさを実感させている。また、子どもの反応から子どもがどんな本を好きかということを知ることにも役立っている。

ブックスタート

・区の4か月健診実施の際に、絵本2冊と区の施設案内をセットにし提供している。図書館員4、5名が担当。1、2月には研修・見学後にボランティアも参加した。今後継続的に参加していただく予定。

児童サービスの意義

- ・子どもと本を結び付け、子どもに読書の楽しみを伝える。
- ・子どもに、図書館の使い方／情報へのアクセスの仕方を教える。
- ・子どもにとって、身近な公共施設としての役割。

- サービスを展開していく上で、必要と感ずるもの
- ・本の知識
- ・子どもに関する知識
- ・子どもと本を結び付ける技術

<資料 - 3> 「古典」の定義に関して

・限られた図書館の予算内で本を購入し、なおかつ限られた時間しか持たない子どもになるべく「面白い、心から満足できる」本と出会って欲しいと考える時、本の選定が必要となる。そうした時、本を見る目（「ものさし」）の基準となるのが古典の本である。読み継がれてきた本には、それだけの力と魅力があると思われる。本の選定をする際にも、そのものさしを使うが、コレクションを作る際にも、全体のバランスはどうかということを考えている。

- ・古典と考えられる作品：

「児童図書館員養成講座」（日本図書館協会主催）では、「古典」作品とは『ひとまねこざる』のような作品であり、「基本図書」は『長くつしたのピッピ』、「読書にいざなう本」としては『なぞなぞのすきな女の子』といった作品をあげている。

しかし、『児童図書館論 フランスの現場から』（シモーヌヴィエーヴ・パット著／日本図書館協会）によれば、現代の作品でも既に古典になった本として『どろんここぶた』や『豚の死なない日』があがっている。個人的に最近の本を評価させて頂くと、『ハリーポッター』は「読書にいざなう本」であり、『えんの松原』は、古典に近い作品と考えている。

「...さて、1冊の本を心をこめて選ぶことを考えると同時に、図書館としては蔵書としての編成と維持の面からも考えなければならない。幼児の多い文庫なら絵本を中心に収集し複本を何冊用意したらよいかとか、児童図書館として当然持っていなければならない基本的な図書を持たず、新しいものばかり購入してはいまいか。『ひとまねこざる』を所蔵していても表紙は製本独特の暗色のカバーに被われていては、本の魅力を失ってしまう。新しい本を購入するばかりでなく補充や買替のことも考えておく必要がある。蔵書構成を考える時、次の図書グループ群を想定すると1冊の本の位置がつかめてくる」（出所：「児童サービス論」佐藤涼子 教育史料出版会）

(1) Classics：基本的な図書群

(2) Standards：現在出版されている本、将来 の群に入る可能性があるかもしれない図書群

(3) Stepping stone：どの子どもも好むというわけではないが、特別この分野に興味を持つのでそなえつける図書群

2 . 障害者サービス

障害者サービスとは

簡単に言うと、「図書館を利用することに障害のある人に対するサービス」であるが、入院中の方、施設に入っておられる方などを含めて、身体に障害のある人に限定したものではない、と考えている。

対象者と図書館資料

| 対象者 | 利用が予想される図書館資料 |
|----------------|----------------------|
| 心身障害者 | |
| 身体障害者 | |
| 視覚障害者 | 録音図書・点字図書・拡大写本・一般 |
| 墨字本 | |
| 聴覚・平衡機能障害 | ビデオ・LD (杉並区は貸出していない) |
| 音声機能・言語機能の障害 | 一般墨字図書 |
| 肢体不自由 | 録音図書・拡大写本・一般墨字本 |
| 心臓、腎臓、呼吸器などの障害 | 録音図書・拡大写本・一般墨字本 |
| 知的障害者 | 図書内容の理解度による |
| 高齢者 | |
| 図書館に来館できない高齢者 | |
| 例：寝たきり老人 | |
| 高齢のために歩行困難 | 録音図書・拡大写本・一般墨字本 |
| 視力の衰えた高齢者 | 録音図書・拡大写本・一般墨字本 |
| 他 | |
| 入院患者・施設入所者 | 録音図書・拡大写本・一般墨字本 |

< 資料 - 4 >

図書館は、障害の状況に関わりなく、「知る権利」「学習する権利」を保障しなければならない

図書館の自由に関する宣言 1979年改訂

社団法人 日本図書館協議会(1979年5月30日総会決議)

2 すべての国民は、いつでもその必要とする資料を入手し、利用する権利を有する。この権利を社会的に保障することは、すなわち知る自由を保障することである。図書館は、まさにこのことに責任を負う機関である。

(利用者に対する責任)

第2 図書館員は利用者を差別しない。

国民の図書館を利用する権利は平等である。図書館員は、常に自由で公正な立場で積極的な資料提供に心がけ、利用者をその国籍、信条、性別、年齢等によって差別してはならないし、図書館に対するさまざまな圧力や干渉によって利用者を差別してはならない。これまでサービスを受けられなかった人びとに

対しても、平等なサービスがゆきわたるように努力すべきである。

図書館の倫理要綱（1980.6.4 日本図書館協議会総会決議）

図書館資料の種類

（１）自館所蔵資料

・墨字本（一般図書） ・録音資料（図書・雑誌） ・点字資料（図書・雑誌）
・拡大写本、大活字本 ・ＣＤ、カセットテープ、レコード、ビデオ、ＬＤ

（２）借り受け資料...その内容のものがない場合には他から借り受けて提供するもの

・墨字本（一般図書） ・録音資料（図書・雑誌） ・点字資料（図書・雑誌）
・拡大写本、大活字本

「拡大写本」は手書きのもの、「大活字本」とは大きな活字の本を指す。

障害者サービスの内容

（１）利用登録（プライバシー保護の観点から郵便で実施）

（２）対面朗読

利用時間... 1回2時間、1日4時間

利用場所... 柿木図書館以外の図書館

阿佐谷・高井戸・西荻・永福和泉地域区民センター

視覚障害者を対象とする対面朗読サービスは、図書館に登録された朗読者が図書館の対面朗読室、区民センターの集会室等を利用して実施している。また、図書館まで来ることが困難な視覚障害者への図書資料の録音テープ化によるサービスにも朗読者が当たっている。対面朗読と録音の仕事にあたる朗読者は現在約100人の方が登録されている。

対面朗読は、1対1で行うもので、まったく本の内容を知らない、本そのものも見ることができない方に聞かせるなど、語り口以外にも特殊な技術が必要で、図書館職員では対応できないものである。

（３）録音図書の製作・貸出

・図書：蔵書テープ（所蔵している録音図書のうち杉並区で製作したもの）
・製作：利用者からリクエストのあった資料、相互協力している全国の図書館に所属していない資料を蔵書テープとして製作する。 製作期間が3～6か月は必要

・貸出：録音図書... 1回3タイトル 15日間

（４）録音雑誌の製作・貸出

・製作：新潮45（90分カセットテープ6本必要）
別冊文芸春秋～隔月刊（同24～27本）
毎日新聞読書欄 - 日曜版（同1本）

・貸出：録音雑誌...10誌まで毎号15日間

(5) 点字図書・雑誌の貸出(現在1,392タイトル、利用は減少傾向)

点字図書・点字雑誌：点字毎日、点字ジャーナル、点字広報

(6) 拡大写本・大活字本の製作・貸出

(7) 図書の郵送サービス

平成14年度1月現在、延べ59人、206冊

障害者サービスの課題

(1) 利用のPR

広報への掲載、関係各課へ働きかけ

特に目の不自由な人へのPRが難しいので、その家族や知人の方々からご本人にお知らせしてあげて欲しいと思う。

(2) ボランティアの支援

障害者サービスは、図書館職員だけでは十分な対応ができない。特に対面朗読、点字本の作成などについて、図書館員はその技術を持っていないので、完全にボランティアの方々に頼っている。専門的な技術を持ったボランティアの方々の協力は持続的に不可欠で、今後とも協力頂きたいと願っている。

(3) 資料管理

・オンライン化...目の不自由な人のPC利用が拡大しているので、ネットの活用なども検討しているが、実施に当たっては、カナ(読み方)検索のルール設定などが必要だと考える。

・デジタル化...カセットテープは時間の経過とともに劣化するので、その対応策として有効だと思われる。

(4) サービスの拡大

・図書の宅配

・朗読サービスの出張

などを検討しているが、予算、人手等の制約があり、なかなか難しい。

ボランティア団体の方々の支援を仰ぎながら、公共図書館として出来る範囲の中で対応してゆきたいと考えている。

<資料 - 5> 障害者サービスの現況

登録者数

障害別 世代別

視覚障害 220 ~ 大正 83

肢体不自由 42 ~ S 20 113

老人等 3 ~ S 40 49

計 265 ~ 現在 20

資料数及び貸出数

資料種別 資料数 貸出数
タイトル数 冊(巻)数 タイトル数 冊(巻)数
録音テープ
図書 258 1,534 142 970
雑誌 558 2,102 3,164 18,731
市販テープ 1,480 3,362 225 310
視聴覚 - - 5 5
計 2,296 6,998 3,536 20,016
点字
図書 1,392 4,404 4 4
雑誌 - - 63 63
計 1,392 4,404 67 67
拡大写本
中央 - 862 - 0
永福 - 406 - 0
計 - 1,268 - 0

(出所：すべて杉並区のホームページより)

3. レファレンスサービス

図書館で、資料・情報を求める利用者に対して、図書館の資料と機能を活用し、利用者に必要な援助を与えること。

回答の範囲

(1) 質問事項に関する資料の紹介

・杉並病に関する資料があるか? 「あなたの隣のある杉並病」(書名)

(2) 資料の所蔵または所在調査(書名は分かっている)

・という本がありますか? 図書館で所蔵している

(3) 書誌的事項(編著者名、書名、出版関係事項等)の調査

・××という英語の本の日本語訳が出版されているか? 翻訳図書目録

(4) 簡易な事実調査

・車椅子で入れる区内公共施設 心身障害者の手引きの一覧

(5) 専門的調査機関についての情報の提供

・類縁機関名簿

(6) 利用案内(目録、書誌、参考図書の利用法、情報探索援助等)

本の使い方、辞書の引き方など

回答してはいけない事項(杉並区立図書館回答事務処理基準より)

(1) 質問を受け付けないもの

・病気の診断や治療について判断を必要とする問題

- ・法律相談、人生案内または身上相談
- ・図書の購入売却のあっせん仲介
- ・個人の生命、名誉、財産等に損害を与え、または社会に直接悪影響をおよぼすとみられる問題

(2) 質問に解答を与えないとともに、資料の提供も慎重に行うもの

- ・仮定または将来の予測に属する問題
- ・古書、古文書、美術品等の鑑定および市場価格調査
- ・系図等の作成
- ・良書の推薦
- ・学習課題の解答および論文の作成
- ・懸賞問題の解答
- ・計算問題の解答
- ・資料の解説、注釈、翻訳、抜粋の作成

言葉の定義：“回答”と“解答”

回答：質問照会に対する返事

解答：問題疑問を解いて答える

組織としてのレファレンス ～レファレンスの協力関係

- ・質問を受けた職員 館
他の職員 大学図書館や専門図書館 など
図書館全体 資料が存在する地元の図書館
都立図書館 国家図書館

4 . 学校図書館

報告：学校教育コーディネーター・平田敬子さん

小学校45校、中学校6校のPTA会長を対象にアンケートを実施しました。会長個人にお答えいただいたものであり、この数字が区立学校の現状を正確に表しているとは限らないことをご了承ください。

現状と課題

設問：「読書タイム」は設けられているか？

全国調査のデータより若干低いですが、読書の必要性は感じていると思われる。ただしその時間にどんな本を読んでいるのかの把握がない場合もあり、時間を設定しているだけということもありそうだ。

設問：「本の貸出日」があるが、借りても本当に読んでいるのか？

フォローがなければ、単に本は学校と家庭を往復するだけ。

設問：「図書館は活用されているか」？

読みたい本、借りたい本が図書館にないという理由も一部にあることを理解してほしい。

設問：「読み聞かせ」の時間は設けられているか？

小学校は80%超、活動の担い手は、保護者>教員=ボランティア等の順番。

読み聞かせで子どもが落ち着きを取り戻したなどという効果を云々することがある。結果的にそうなる場合はあるだろうが、それは目的ではない。本と過ごす豊かな時間があることに子どもが気付くきっかけの場ととらえたい。その意味では、プロによる芸術的な読み聞かせもいいが、身近な大人によるものも大切。今後、保護者を含む地域の方々の係わり方を研究する必要あり。

学校図書館への提言

- ・たとえ家庭に読書の習慣がなくても、学校で行うことで、子どもに読書の習慣をつけることはできる。
- ・学校の図書館では「人のはたらきかけ」が大きなポイントとなる。
子どもは、公共図書館に行かなくても、学校の図書館には行くようになる。
読書の時間を大切に、有意義なものにするには“周囲の目”が不可欠。
- ・「調べ学習」の資料としての本の活用
専門家のサポートが必要。
インターネットによる“ピンポイント”的な情報収集も効果的だが、関連書籍の検索も必要である。

<資料 - 6 > 杉並区立小中学校の図書に関する状況 ～ P T A(会長)に対するアンケート結果(2003/2)より～

対象：区立小学校44校、区立養護学校1校、区立中学校6校(23校中)

【1】全校一斉の読書タイムはありますか？

〔小学校〕ある...29校(65%) ない...15校(33%) わからない...1校(2%)

〔中学校〕ある...3校 ない...1校 わからない...2校

参考：「学校図書館の現状に関する調査結果」文部科学省初等中等教育局

2003/1/29

全校一斉の読書活動の実施状況(平成13年度間) 小学校(公立)77.8%、中学校(公立)60.5%

【2】児童・生徒は学校図書をよく借りている

〔小学校〕そう思う...36校(80%) 思わない...2校(4%) わからない...7校(16%)

〔中学校〕そう思う...1校 思わない...0 わからない...5校

【3】学校の図書室は十分活用されているか

〔小学校〕そう思う...28校(62%) 思わない...5校(11%) わからない...12校(27%)

〔中学校〕そう思う...2校 思わない...1校 わからない...3校

【4】〔小学校〕児童に対する読み聞かせが定期的に行われている(全学年でなくとも)

はい...37校(82%) いいえ...7校(16%) わからない...1校(2%)

【4-1】「はい」と答えた学校：その活動を担っているのは(複数回答)

職員...14校 保護者...28校 その他...14校(地域ボランティア、ゲストティーチャー、児童の図書委員)

参考：「学校図書館の現状に関する調査結果」(同上)

ボランティア等の協力を得ている学校(平成13年度間)

小学校(公立)31.5%、中学校(公立)11.5%

【5】〔中学校〕学校の図書室は常時開放されている

いいえ...4校 1日の中で特定の時間帯のみ開放 わからない...2校

【6】〔小学校〕休み時間の図書室に大人がいる

いる...8校(18%) いない...30校(67%) わからない...7校(15%)

【7】〔中学校〕図書委員会(生徒)の活動が活発

そう思う...2校 わからない...4校

【8】PTAや地域の方が学校図書(図書室)を支援する活動をしている

〔小学校〕している...23校(51%) していない...19校(42%) わからない...3校(7%)

〔中学校〕している...1校

【8-1】「している」と答えた学校：その活動内容(複数回答)

〔小学校〕団体貸し出し図書の選定...10校 本棚の整理整頓...10校

貸し出し事務...1校 図書の購入・寄贈...9校

おすすめ本コーナーの設置など...7校

児童へのアドバイス(質問・相談受付)...4校

その他...7校(読み聞かせ、土曜日の図書室開放、本の整理、

図書室の装飾)

〔中学校〕土曜日学校の自習室

参考：「学校図書館の現状に関する調査結果」

司書教諭発令数及び全学校に占める割合(平成14年5月1日現在)

・小学校(公立)...1,850人、8.1%(学校数22,881、司書教諭有資格教員31,028人)

・小学校(私立)...66人、38.4%(学校数172、司書教諭有資格教員255人)

・小学校(国立)...4人、5.6%(学校数72、司書教諭有資格教員87人)

・中学校(公立)...862人、8.4%(学校数10,288、司書教諭有資格教員11,286人)

・中学校(私立)...264人、40.8%(学校数647、司書教諭有資格教員712人)

- 中学校(国立)... 2人、2.7% (学校数75、司書教諭有資格教員75人)
公立小中学校と公共図書館等との連携状況(平成13年度間)
- 公立図書館等との連携を実施している学校数...〔小学校〕10,620(46.4%)
〔中学校〕3,001(29.2%)
- 図書館資料の貸借...〔小学校〕7,972(34.8%) 〔中学校〕2,329(22.6%)
- 学校との定期的な連絡...〔小学校〕1,728(7.5%) 〔中学校〕613(6.0%)
- 公共図書館の司書等の巡回訪問...〔小学校〕1,789(7.8%) 〔中学校〕285
(2.8%)
- その他...〔小学校〕2,148(9%) 〔中学校〕528(5.1%)